
麻生リトル・ラグーメン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

『26年度』一年間有難うございました!!

校長 三浦 幸宏

26年度のリトルラグメンも最終号となり、4月の総会で承認を頂いた事業計画も多少の変更はあったものの無事終了し、3月29日の卒業式を以って26年度が終了出来ることに感謝すると共に関係者各位にお礼申し上げます。一年間を振り返ると色々な事が思い出されます。

そんな中で今年度の課題として大きく挙げられる事は骨折による怪我が多かった事、消費税8%になった影響やバス会社の長距離運行に対しての対応が厳しくなった事等でスクールの財政が非常に厳しくなったことです。

怪我の防止の一環として体幹トレーニングを考え各学年代表コーチに体幹講習を受講いただき次年度に向け練習メニューの中に取り入れることにします。又財政に対して合宿費の値上げやスクール費の値上げ等を考えなくてはいけない状況になっていますが、ここ数年小学部及び中学部での子供達の生徒数が120名前後を推移しており、生徒数を増やすことで財政を保持出来る事が望ましく、2～3月に生徒募集のチラシを配布させて頂き生徒数の増加をはかります。ご協力頂いたご父母、コーチの皆様感謝いたします。

6年生へ、ファイナルカップでの涙を校長は忘れません。悔しくて自然に涙が出たのだと思う。君達の感情的な涙を見たのは初めての事なので校長も感動したし目頭が潤んできました。これからは、我慢しなくてもいいんだよ、たまには感情的になっても!

中学部3年生・小学部6年生の卒業される皆さんご苦労様でした。これから長い人生の君達には麻生ラグビースクールでラグビーを通して、優しさ・礼儀・忍耐・助け合い等を学んだ時間や経験は財産です。夏合宿の事が一番思い出に残る事でしょう。あの厳しい練習に耐えることが出来た事、素晴らしい事です。必ず役に立ちます。『自信と誇りと勇気』を持ち麻生ラグビースクール出身者として胸を張って下さい。これからの君たちの活躍を楽しみにしています。『all for one, one for all』を忘れずに!

今年度もコーチの皆様には大変ご協力を頂きありがとうございました。次年度も子供・親・コーチと三位一体で『次代を背負う若者づくり』に励んで行きますので皆様のご協力をより一層お願い申し上げます。

最後になりますが、校長に就任して早10年が過ぎようとしています。今までご指導いただいた先人のコーチの方々やご協力頂いている現役コーチの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。もう少し校長を続けさせて頂きますので今まで以上に指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成26年度のまとめ

幹事長 加賀 司

3/29の卒業式を残して、全ての行事が終わります。

麻生ラグビースクールの役員・コーチの方やご父母の皆さんの多大なご協力を頂き、無事に1年間を終えることができることに感謝いたします。どうもご苦労様でした。そしてありがとうございました。

- ・今年度を振り返りますと4月以降に入校した生徒は16人と昨年の27人からは大幅減です。そのためポスター掲示や無料体験会の開催など募集活動を2月、3月と実施しています。
 - ・年少：松村ダイシン君の1人
 - ・年中：吉田シュン君の1人
 - ・年長：森リク、永井リョウスケ、松村ソウタ、児玉ケンゴ君の4人
 - ・1年：杉浦ケイスケ、黒須ショウ、毛利ソウヤ、島田キョウスケ君の4人
 - ・2年：中川ルカ君の1人
 - ・3年：本間ハルキ、佐藤リン、佐藤タイ、児玉ユウキ君の4人
 - ・4年：黒須カエデ君の1人
 - ・中学1年：太田、原田、横尾、児玉、本田、山内、阿部、萬場、宮坂、上田、野村、熊谷、米元、千秋、安藤、小坂、斎川、津国、野田、日笠、角田、吉田、飯島、奥川、芝田君が卒業・進級予定です。
- ・新人コーチは宇野さん、山崎さん、杉浦さん、黒須さんの4人でした。また、3月末で退任されたコーチは毛利 昌康、川越 義一、齋藤 秀樹さんです。長い間、ご指導頂き、ありがとうございました。
- ・ジャージ類の販売については一昨年度の途中から「シンコースポーツ」に個別注文する方式に変更しました。これを機会にジャージは今までの赤紺から柿色と赤紺のリバーシブルタイプに変更し、背番号と名前も印刷されるものに変更されました。そのため、6年生が着るオレンジジャージは卒業式のみとなりました。
- ・1月11日に行われた恒例のもちつき大会は6年父母と5年父母による前日からの仕込みにより、参加者全員満足して頂けました。下記写真をご参照下さい。

「平成27年1月11日 餅つき大会の様子」



以上

26 年度高学年技術総括

高学年技術担当 上田 博朗

6年生のみなさん卒業おめでとうございます。いろいろな場面で卒業についてのコメントは交わし尽きたのでこの場では差し控えます。

さて、今年度の高学年の技術総括は県大会を終えた時点で一度行っておりますので、ファイナルカップを中心に改めて感じたことを記します。

今年の大会で私の印象に残ったチームは、優勝した鎌倉RS、3位の大和RS、1回戦で鎌倉と引き分けた末抽選で敗れた横浜RSです。各チームに共通していた点は、基本プレーの精度の高さでした。

- ・ダウンボール一つとっても強いチームのダウンボールはコロコロ転がらない。だから、次のプレーのミスが少なく素早い。

- ・ブレイクダウンの姿勢が低く、入際の躊躇がない。だから、取れなくても相手にプレッシャーが常にかかっている。

- ・タックルに入る際に多少ずらされても、体を当てる強い気持ちが途切れない。だから、仮に指しかかからなくても離さない。

- ・相手の優れた攻撃でゲインラインを切られた後も誰一人戻ることを怠らず、次のディフェンスを整えることができる。だから、簡単にトライなんかさせない。

- ・何よりもルールをよく知っている。だから、きわどいプレーができる。などなど。

どれもこれも極々基本的なことばかり…。サインプレーの習得や派手な個人技ではありません。

我が麻生RSはどうだったのか？コーチとしてどこまで基本を大切にできていたのだろうか？子供と一緒にルールの勉強などしてきただろうか？ある意味で自身の指導の在り方について考えさせられる大会でした。

もちろん基本プレーの指導は麻生も行ってきていましたし、今大会の結果以上に善戦もしたし実力は紙一重だったとも思います。しかし、基本中の基本の部分が欠けていた気がします。

新高学年のみんなには楽しさを伝えることも忘れずに、より深い基本の大切さを伝えなければならぬと痛切に感じました。技術部会にて今後の指導の在り方に反映していく所存です。

<レフリー>

私は30代後半、県協会公認C級レフリーの資格を得た。高校生の笛を吹く必要があったから。ミニの試合では1日に2試合、吹くこともありました。レフリーの数が足りなかったのです。1日につき、500円の日当をもらいました。交通費にもならなかった。2年ほどでとりやめ。

平成4年、秩父宮でミニの資格認定試験がありました。

津田さん（日本ユニシス）と一緒に受けにいきました。秩父宮のグラウンドは見た目よりは荒れていました。

認定番号は20番です。なにしろ日本ラグビー協会の認定証ですから。今でも持っています。

これがミニのレフリーの始まりです。その後は各県で認定するようになったのです。

平成12年5月、秩父宮レストハウスで行われた、関東ラグビー協会75周年の祝典のとき、功労者賞をもらいました。受賞者は総勢で30人もいたでしょうか。なにせ北海道から静岡までですから。

藤田さん（のちの校長）も一緒でした。藤田さんは、福岡、草が江ラグビースクール・ヤングラガースの実績を加味されたのでしょうか。

帰りに渋谷の薩摩料理店で藤田さんと痛飲しました。

<むーさんとおかちゃん>

村山さんは、秋田工業・明治大学と名門校の出身です。博報堂に勤めていました。

むーさんと呼びます。コーチの試合ではスタンドオフをやり、華麗なプレーを見せてくれました。

ただ後年、年をとってからは、体のみ前に、足がついていかず、皆さんが面白がりました。

その後、金沢支社長となり、名産品をもって日大グラウンドにも来られました。

一方のおかちゃんは、博報堂でむーさんの後輩です。2、3年遅れて入ってきました。

岡川さんといいます。おかちゃんにはまいりました。合宿で同室になったときですが躰をかくのです。ゴー しばらく間をおいて ゴー その間は無呼吸です。

その岡川さんが出陣歌を作ったのです。今の校歌です。ギターで作曲したと聞いています。

作詞は藤田さんです。安齋さんの息子の恵太君が編曲となっていますが嘘でしょう。

唄でお手伝いをしたのだとおもいます。

平成18年、松村拓海君らが6年生のとき、気力高揚のため、麻生ラグビースクール・ウオークライを作りました。アイヌ言葉です。調子がいいのです。

ところが競技委員からクレームがきました。競技を遅らせるというのです。30秒ほどなのに。グラウンドでは歌えないということになりました。

しかし、卒業式後の打ち上げ会ではみんなで斉唱してくれました。下をむいて涙。

歌詞がほしいかたにはお送りします。



『卒業おめでとう・・・』

中学コーチ 小坂頼史

中学卒業の皆さん。3年間、お疲れ様でした。そしてご父母の皆様、卒業おめでとうございます。思えばこの学年は、1年生の時に佐々木君が足の骨を折り手術、グリーンの古屋さんがやはり足の骨を折って手術。立て続けに大きな怪我が起きました。毎回練習中、試合中『みんな怪我だけは、しないで・・・』と連日ハラハラどきどきでした。

最後の卒業試合で試合終了のホイッスルがなり、グラウンドでみんなが笑って集合写真を撮るときには『ああ・・・みんな怪我がなく、無事だ！』って妙にうれしい気持ちでいっぱいでした。

県大会では田園RSには負けましたが、横須賀RSに大差で勝利。結果4位と言う成績でしたが、3年生の人数も少なく、体も小さいメンバーでよく戦ったと思います。(ちなみにDAGSが単独チームになって横須賀RSに勝ったのは初めてで、感動しました。)

これから高校生です。いつも言っていますが、目標意識をしっかり持って頑張ってください。また、親への感謝の気持ちを忘れずに『ありがとう』って気持ちを伝えましょう。機会があればグラウンドに来ていっしょに汗を流しましょう。後輩の指導もお願いします。

以上

DAGS で学んだこと

3年 山本 凌介

私はDAGSのおかげで心身ともに強くなりました。
体が小さい人間でも体の大きな人間を倒すことができることを教えてくれたのはDAGSです。
1、2年生の時には大きな体の相手に対して、怖くてなかなかタックルに行けませんでした。
そんな中、少しずつタックルを教えて下さったおかげで、いつの間にかタックルが出来るようになりました。
これからDAGSに入る小学生たちには、練習がきつくても心の底からラグビーを楽しみ、仲間と目標に向かって頑張ってもらいたいです。
私がそうであったように、今の自分が周りよりも上手くなくても、一つ一つの練習に一生懸命に取り組めば必ず自分に結果が返ってきます。
私も高校で一生懸命に努力し、周りの人から目標とされる選手になれるように頑張ります。
今まで本当にありがとうございました。

仲間

3年 白川 幹斗

僕は、ラグビーを通じてたくさんの仲間ができました。その仲間達ともケンカする事もあるし、口をきかないこともあるけど、最後は仲良くなります。
それはラグビーを通じることでお互いがよくわかっているからです。
僕が思うにラグビーをやっていた仲間は一生の仲間だと思っています。ラグビーの仲間を大切にしてください。

祝 卒業

2年 伊藤 大吉

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。2年間本当にお世話になりました。一緒に厳しい練習が出来てよかったです。ありがとうございました。高校へ行ってもラグビー頑張ってください。

先輩方へ

2年 萩原 睦

僕が入学して先輩方の試合を見たときは驚きました。僕たちとはパスのテンポが違い、タックルも激しく、すごいと思いました。
先輩方は僕の目標で、その目標に向かって真剣に、練習に取り組みました。最近、出席日数が部活のため少なくなっていますが、これからも頑張ります。
高校でも頑張ってください。

先輩の皆様へ

2年 中司 大也

ご卒業おめでとうございます。2年間お世話になりました。
先輩方はいつも優しく、厳しい練習の時は励ましてくださりとても、嬉しかったです。
チームワークを大切にする先輩方はぼくの目標です。ぼくも、後輩の手本になれるよう、悔いの残らないよう最後の一年間、もっともっと頑張ります。
高校へ行ってもラグビー頑張ってください。
みんなで行った海の楽しかった思い出は、ずっと忘れません。
ありがとうございました。

3年間ありがとうございました

山本 凌介の父 山本 慎一

コーチの皆様 3年間大変お世話になりました、ありがとうございました。

また、チームメイト、ご父母の皆様には面倒を見ていただきまして、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

この3年間を振り返りますと、二つの成長を感じることができました。

一つ目は、ラグビーにすごく興味を持ち大好きになったことです。小学生時代とは比較にならないくらい練習が厳しかったと思います。でも、その厳しい練習をのりこえた後には、すばらしい充実感や達成感、連帯感が生まれ、ラグビーの素晴らしさを実感でき、もっとラグビーがうまくなりたいという気持ちが芽生えたのかなと思っています。そのことを練習を通じて教えていただいたのがコーチの皆様です。

二つ目は、自分の体のケアをしっかりとできるようになったことです。

予防はもちろんですが、練習後のケアも意識して出来るようになりました。

自分の体は自分で守るしかありません。3年間大きなケガをしなかったのは、親としてホッとしています。

これからは、もっと厳しくなるとは思いますが、DAGSで教わったことを忘れずに、頑張ってくれと思います。本当にありがとうございました。

感謝

白川 幹斗の母 白川 真美

幹斗は、麻生ラグビースクールで多くの仲間に出逢い、多くのコーチからラグビーだけでなく、色々な事を教えていただきました。

幹斗の人生で一生の宝物を頂けたと感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。



「失敗を恐れなくて！自分を信じよう！」

6年生チーフコーチ 山本 慎一

卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

また、ご父母の皆様にはスクール活動にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。みなさまに、心からお祝いと感謝を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業にあたって「失敗を恐れなくて！自分を信じよう！」という言葉を送りたいと思います。これからの期間は自分は何が得意なんだろう？何が好きなんだろう？といっぱい挑戦していっぱい失敗して自分はどんな人物なのかを探してください。たくさん失敗していく中で、やがて自分の可能性と出会います。ラグビーが好きであれば、ラグビーを続けてください。絵を描くのが好きであれば画家を目指してください。人を笑わせるのが好きだ！という人はコメディアンになったり。

色んな未来や可能性が君達を待っています。自分の可能性を信じて頑張ってください。

次に会う時は、みんなはもっと成長して、中学校で立派に活躍していることでしょう。

多くの「挑戦したこと」をお土産話としてまた会える日を楽しみにしています。

小学校修了にあたって

6年サブコーチ 古田 十

6年生諸君、小学校修了おめでとう。

私は、どうしたらみんなが気持ちを強く持って試合に臨んでくれるだろうか、どうしたらコーチ達の思いをみんなに伝えられるだろうか、一生懸命考えていました。考えながら気が付くともう6年生も終わりとなってしまいました。

悔やまれるのはファイナルカップの多摩戦。勝てた試合でした。ちょっと私は舞い上がっていたのかも知れません。その次の厚木、そしてそのあとのプレート決勝、これを考えるあまり油断したのかも知れません。

私が麻生ラグビースクールでの経験をとおして君達に伝えたかったのは、ラグビーというスポーツの厳しさと、仲間と信頼し合うことの大切さでした。伝わったかな？

いい年のオッサン達が体を張って真剣に君たちへ向かっていったことを覚えていてください。できたらラグビーを続けてください。自分が経験したラグビーの素晴らしさをこれから出会う仲間にも伝えてください。

そして君たちが、中学生、高校生、大学生や社会人になっても、結婚して子供が出来ても、きっとコーチ達はラグビースクールにいるだろうと思います。一人でも麻生ラグビースクールに帰ってきてくれたらうれしいです。

20歳になったら飲みに行きましょう。経験豊かな(?)おじさん達がイイところへ連れて行ってあげます!

保護者のみなさま。最後までスクールにご支援をいただきましてありがとうございました。至らぬ点多々ありましたがご容赦ください。子供たちのプレーと同じく、徐々にお母さん達の一体感が強まり素晴らしいチームワークで私たちをサポートしていただきました。またお会いできる機会を楽しみにしています。

小学部卒業する6年生へ

6年コーチ 清水賢一

麻生RSの小学部を卒業する6年生、卒業おめでとう

コーチはみんなとは三年生～四年間でしたが一緒に試合に勝った嬉しさも負けて悔しんだ事も、菅平での暑い夏合宿もみんなと共有できた事を感謝しています。

6年生25名はコーチが今回の6年生で4回目の卒業生になりますが人数が多い事での有利さや多いがゆえの難しさを知った四年間でした。

卒業するみんなも、いつも練習に使わして頂いた日大グラント`の関係者や練習や試合に送り迎えをしてくれたご父母の方々そして共に練習し戦った友達に感謝する事を忘れずに上のステージ、中学生になってもラグビーを続ける人、他のスポーツをする人、勉強を頑張る人

それぞれの場で活躍していく事でしょう、その裏では君達を影で支えている人が必ずいる事を忘れないで下さい。

御父母の皆様、自分は四年間でしたが、練習・夏合宿や県大会・ファイナルカップなどあらゆる面でご理解とご支援をしていただいて大変助かり、ありがとうございました。

『6年、卒業おめでとう そして中学生生活を楽しめ!』

卒業おめでとう! 6年生

6年コーチ 山中 淳郎

6年生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

コーチはみんなが5年生になった4月から担当しましたので約2年間を共にグラウンドで過ごしたことになります。25人という麻生RSの中では最大人数で名前を憶えるのに苦労したのを思い出します。大きい子、小さい子、足の速い子、アタリの強い子、黙々と頑張る子と様々な個性が混ざり合った学年でしたね。

最後の県大会では悔しい思いをして、受験組が戻った“ファイナルカップ合宿”の5日間は君達の集大成だったと思います。合宿3日目に校長からカミナリが落ちて、そこから本当に皆の気持ちがひとつになったように思います。ファイナルカップ結果は残念でしたが、それまでの過程でチームとしてひとつになるというラグビーとして最も大事なことを成し遂げていたんだと思います。コーチは大会運営係だったのでグラウンドサイドでは応援できませんでしたが、遠くから見守っていました。2日目の最後の試合を全員で戦うことができ、最後に繋いで取ったトライは素晴らしいものでした。

いよいよ卒業です。これからは中学に上がり、みんなの未来は無限に広がっていきます。麻生RSで経験したことは全てみんなのベースとなっているはずです。ラグビーを続ける子もそうでない子も自信を持って何にでも挑戦して行ってください。麻生RSでやり遂げたみんななら必ず途中で

投げ出すこと無く、またやり遂げてくれると信じていますので。

6年生のみんなへ

6年コーチ 田口幸吉

麻生ラグビースクールも小学校も卒業ですね。

おめでとう。

練習も勉強もみんな良く頑張りました。

ラグビーは楽しめましたか。

小学校生活は楽しめましたか。

頑張った分だけこれから楽しい事がたくさん待っていると思うし、これからもっと頑張らなくてはならない事もあると思う。

この仲間が居たから頑張れたし、楽しめたんだと思うからこれからもずっと仲間を大切にしてください。

ラグビーを続ける子、勉強をもっと頑張る子、ほかの部活を始める子、コーチはこの先のみんなを応援しています。

コーチはこの仲間と一緒にラグビーができたことを嬉しく思います。

これからもファイトです。

ありがとう。

卒業

6年キャプテン 小坂 海歩

私は1年生の時にラグビーを始めました。最初は怖かったし、男子ばかりであまり好きではありませんでしたが、ラグビーをやっていくうちにどんどん好きになっていきました。

1学年上の卒業式で、キャプテンから「次のキャプテンはみぶ」と、言われた時は本当にびっくりして、不安な気持ちでいっぱいでした。

県大会ではあまり良い結果を残せませんでした。

最初で最後のファイナルカップでも、大和に負けてしまい、コーチや保護者の方々に恩返しすることができませんでした。

それに、キャプテンとしてチームを引っばれたのか、声を出せていたのか、キャプテンとしてキャプテンらしいことができたのかと思うと本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

山本コーチや6年のコーチ、そして、お父さん、お母さんこんな私達を支えてくれて本当にありがとうございました。

みんなも今までありがとう。

これからもラグビーをやる人もやらない人も、DAGSに来る人も来ない人もがんばってね。

6年 小坂 海歩 母

海歩が最初にスクールに参加させてもらったのは、3つ下の息子を入校させるためでした。

でも、息子は嫌がり思いがけずひとり入校することになりました。

3年くらいになったら他のスポーツにでも行くものと思っていたのですが、いつからかラグビーにはまっていた娘。

親からすると期待の学年で人数も多く上手な子がたくさんいるのでついて行けるのか不安だったのですが、本人はどこ吹く風で全然気にしてない様子。

いつも楽しそうに練習に来ていました。

今から思えばそれが一番大事なことでした。

何より6年間良い仲間恵まれ楽しくラグビーをやってこれて本当に良かったです。

なかなか勝ちに恵まれませんでした。6年間努力してきたことはきっとこれからの糧になると思います。

これからもラグビーを続けていきたいと言っているのでできる限り応援していきたいと思っています。

最後に6年間お世話になったコーチの皆様本当にありがとうございました。

麻生ラグビースクール卒業

6年 バイスキャプテン 萬場 康生

ぼくは、保育園から6年生までずっとラグビーが好きでした。試合に勝つことはうれしかったし、普段の練習は辛い時もあったけど毎週楽しみにしていました。中学校でも今までコーチに教えてもらったことを活かして、支えてくれた両親に感謝しながらラグビーを頑張っていきます。

感謝

6年 萬場 康生の母 恵子

とうとう、卒業となってしまいました。康生が麻生ラグビースクールにお世話になったのは、保育園年長の春でした。だんだん体力がついてきて何かスポーツをさせたいと考えていたところ、保育園にたまたまチラシが入っていて、友達のこうだい君も通っていた麻生ラグビースクールの見学に行くことにしました。

康生はすぐに気に入り、ラグビーのことは全く分からない私たち夫婦も、息子の応援をしているうちに今ではJRFUメンバーズクラブ会員です（笑）

メンバーが年々増え、最終的に25人という大所帯の学年で練習できたことは、とても充実したスクール生活だったと思います。また、一生の仲間をつくることができたと思います。

私としても、お母さん達と協力して数々のイベントに参加し、たくさんの試合を応援し、子供たちの成長をともに喜び、感動を分かち合えたことは良い思い出です。

6年生の公式戦は終了しこれで卒業と思うと寂しい限りですが、子供たちには中学に行ってもそれぞれの道でスクールで培った“根性”で頑張っていってほしいです。

最後になりますが、三浦校長、山本コーチをはじめコーチの皆様には、なかなか火のつかない学年で、ご苦労おかけしました。それでも最後まで優しく、時に厳しい心のこもったご指導本当にありがとうございました。心より感謝します。

6年間の思い出

6年 上田 武蔵

低学年の頃はタックルを怖がっていました。ラグビー自体あまり好きではなかったのですが、コーチの熱心な指導のおかげで、3年生でハーフになってからタックルへの恐怖心が消え、夏合宿の試合でとても良いタックルが出来ました。

5年生の時、突然ポジションが変わり、悔しくて泣いたこともありました。でもそのおかげでフォワードやウイングの目線からハーフを見ることができ、ハーフとしてどのような動きをしたらよいか、よりわかるようになりました。

ファイナルカップ予選は大和戦で敗れたものの、いい試合が出来てよかったです。

麻生で学んだ努力や礼儀を大切に守っていき、これからの中学生活に生かしていきたいです。

麻生RSでの6年間

6年 上田 武蔵の母 上田 佳連

6年間、武蔵が本当にお世話になりました。

1～2年生の頃は、ただ走ってボールについていくことしかできない姿を見て、「本当にこのままラグビーを続けさせてもいいのか」と真剣に悩んだ時期もありました。そんな武蔵をコーチの方々は長い目で指導して下さり、3年生になった頃には、少しずつタックルにもいけるようになりました。この年の夏合宿の試合で、成長した息子の姿に感激したことを今でもはっきりと覚えています。

楽しい思い出も悔しい思い出もたくさんさせていただきました。麻生RSにおけるこうした経験の数々

によって、武蔵が心身ともに成長させていただいたことは間違いありません。

麻生 RS を卒業することはとても寂しいですが、この6年間の経験は、これからも武蔵を見えないところで支え続けてくれるものと確信しております。

最後になりますが、麻生6年生のために長い間奮闘していただいた山本コーチには、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

麻生RSでの7年間を振り返って

6年 阿部 凌大

これまで7年もの間、FWでした。BKを何回かやったことがあるけれど、僕には向いていませんでした。

最初はFWの選手は皆、体格が良いから自分にできるか不安だったけれど、今ではFWの役割を少しは果たすことが出来るようになったと思います。

三年生、四年生と二回も県大会を優勝することができて良かったです。

でも、五年生になってから大和に負けるようになってきて、最後のファイナルカップでも大和に負けてしまったので、とても悔しいです。

大和の試合は最初はよく攻めることができていたけれど、声をあまり出すことができませんでした。最後の公式戦で結果を残すことができなかったのは悔しいけれど良い経験をすることができました。このメンバーでラグビーをするのは最後だから残念だけれど、僕は中学でもDAGSで頑張りたいと思います。小学校でできなかったことをできるようにしっかりと練習し、そして、今よりも上手になれるように頑張っていきたいと思います。

「コーチ、仲間のみんな、今までありがとう」

ありがとうございました

6年 阿部 凌大 (母) 美紀

入校当時は、外で活発に走りまわるよりは砂場で遊ぶのを好むおとなしい子供でした。男の子だし、スポーツで活発になって欲しいと思い、同じ保育園の本田さんに誘われ…以来7年以上、小学校より長い期間お世話になりました。

コーチの皆様にはとても熱心にご指導いただき、楽しく思いやりのある仲間に恵まれて、毎週楽しく続ける事ができました。

周りの仲間達がどんどん上手になっていく中、なかなか上達しない息子に、正直、親の方が焦りもどかしくも思いましたが、本人は至ってマイペース。このまま卒業なのかな…と思ってました。けれど5年の終わりに山内さんに誘われ、太朗くん、昂大くん、康生くんと4人1組で駅伝大会に出て、みんなで完走した事をきっかけに、走る事や体力に少し自信をつけたようです。

また6年夏合宿でのコーチと三浦校長からの熱い指導により、少しずつ気持ちとプレーが変わってきたように思います。県大会、ファイルカップと親から見ると、息子なりに頑張っていたと感じましたし、入校当時では想像していなかった程、頼もしく成長し卒業を迎えられたこと、とても嬉しく思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(欲を言えば、もう一年くらい早くこのヤル気を見たかった…)

きっと麻生での経験が自信となり、この先の息子の生きる力になってくれるものと信じています。コーチの皆様、ご父兄の皆様、本当にお世話になり、ありがとうございました。

4年間お世話になりました。

6年生 吉田 隼輔の父

山本チーフコーチはじめご指導頂きましたコーチの皆様、本当にお世話になりました。

隼輔がラグビーを続けられたのは、コーチの皆様のおかげです。

ラグビーをやりたいというよりは、同じ学校、同じクラスのたけるとはるとがいるからという理由で、入校しましたので、正直、いつまで続くのかと思っておりました。

4月1日生まれで、皆についていくのがやっとの隼輔が、4年間もラグビーを続けてくれたことを嬉しく思いますし、本人の自信になっていると思います。
また、ラグビーを通じて、出来た友達をこれからも大切にして、DAGSでも頑張りたいと思います。

今までありがとうございました

6年 吉田 隼輔

今まで、みんなとラグビーをがんばれたことが一番楽しかったです。
最初は、学校が同じ人があまりいなかったのが、きんちょうしました。
でも、今まで、ずっとラグビーをやってきて、学校がちがう友達が出来たのがうれしかったです。
そして、山本コーチコーチ、6年生のコーチが一生けんめい教えてくれたので、すごく楽しくやる
ことができ、練習がつらくても、仲間がいたから、がんばれました。
今まで、ありがとうございました。

麻生ラグビースクール卒業を迎えて

6年生 本田 昂大

僕は年中からラグビーを始めました。初めは、興味がなく花や昆虫と遊んでいました。
しかし、それでもコーチから「来て下さい。」と言われたので、しぶしぶ通っていました。
でも、少しずつ楽しくなり、僕を誘ってくれた友達がやめてしまってもそのまま続けました。小さい頃は、試合中に面白いハプニングもありました。仲間の靴紐がほどけてその場に座り込み、紐を結んでいるとそこに相手が走ってきて伸ばしていた足に躓き転んだこともありました。
僕は、学年が上がるにつれ、痛い思いをすることも増えてきました。顔にひじが当たったり、仲間と正面衝突したりしました。でも、頑張り続けました。
4年生からコーチの練習も厳しくなってきました。同じ失敗を繰り返したら、ボールを蹴っ飛ばされ、取りに行かされました。しかし、この頃からチーム全体に勝利への執着心が芽生えてきました。そのことによりこの年は、県大会の優勝が出来ました。
最終学年になり、練習が一段と厳しくなりました。しかし、本当に僕は、大事な所でけがをして合宿もファイナルカップも出来ませんでした。最後まで、頑張ることができず、悔しかったけれど、きっとこれからも色々な事が起こると思うので、その時は、あきらめずに立ち向かっていきたいと思います。
ラグビーを続けてきて、厳しかったけれど楽しい8年間でした。

麻生ラグビースクールの卒業

6年生 本田 昂大 母

保育園の先輩お母さんに誘われ、見学したのは年中さんでした。一人っ子の為、チームスポーツをさせたいと親の考えのみで入会しました。初めは、花や昆虫と遊ぶことから始まったラグビーが、週1,2回の練習が親子の生活の一部となっていきました。
引っ越しをして一時、行きたがらないこともありましたが、高学年になるにつれ、電車通って練習に行くようになり、登校前にパスの練習をするようになりました。
体が大きくなるにつれ、怖くてタックル出来ないこともありましたが、でも、本人なりに克服して少しずつ頑張りました。
6年生は、大事な所でけがが続き、合宿とファイナルカップと参加できず、親子共々悔いが残る最後となりましたが、子供なりに仲間をサポートし、仲間に支えられ大切なものを手に入れました。とても良い仲間に出会ったと思います。
麻生ラグビーで経験したことは、今後、子供の生活に活かされると思います。
最後に8年間コーチの方々には熱心なご指導頂き、誠にありがとうございました。

ファイナルカップで学んだこと

6年 熊谷 祥

スクール最後の公式戦ファイナルカップ、残念ながら、結果は、目標にしていた大和に負け、2位のトーナメントも最初の試合で負けた。

大和戦は、前半最後1~2mを残してトライができず、悔しかった。

その後、後半であんなに差がつくとは思いませんでした。

大和戦で学んだことは、ほんの少しの力の差が、大きな差に変わるということだ。

これから僕はその小さな差を少しずつ、うめていきたい。

多摩戦で学んだこともある。前半は調子よく麻生の流れだった。僕も全力を出した。

だけど、後半はベンチだった。さらに自分の対面にトライを何本も決められ負けた。

さらに悔しくなった。

多摩戦で学んだことは、悔しさだ。

これからもっと悔しいことが、あると思う。

これからも、全力を出して喜ぶときは喜び、悔しいときは悔しむことにする。

ファイナルカップでは、いろいろなことがあり、いろいろな思いがあったけど、ラグビーをプレーしているときが一番楽しかった。

麻生ラグビースクールでの4年間をふり返って

6年 日笠 壮太

3年生と4年生では県大会で優勝できてとてもうれしかったけど、その他は優勝できなくてくやしかったです。

でも、ラグビーを続けたおかげで足が速くなったし、あいさつなどの礼ぎや、パスをつなげてトライにつなげることで、一人ではできないこともみんなで力を合わせればできるから、協力することはとても大切だと学びました。

麻生ラグビースクールで学んだことを中学でも生かしていきたいです。

コーチ、チームのみんな、ありがとうございました。

息子の卒業にあたって

6年 日笠 壮太の母

三浦校長、山本チーフコーチをはじめコーチのみなさま、マイペースな息子を根気よくご指導くださり大変感謝しております。

また、壮太と一緒にラグビーをしてくれたチームのみんな、本当にありがとう。

そして、パパさん・ママさんたち。人見知りであり輪に入れませんでした。みなさんと一緒に子どもたちを応援できてとてもいい思い出になりました。本当にありがとうございました。

壮太は背が高く体型に恵まれていましたし、男の子だから元気に何かしらのスポーツをやりたいと思っていたところ、偶然同時期に別々の2ルートから麻生ラグビースクールにお誘いいただき、これも何かの運命かと思い、2年生の雲ひとつない快晴のとても暑い7月下旬の日に体験見学に参加しました。

この時期に見学を申し込んだわたしが悪かったのですが、普段からお気楽に生活していた壮太にはそのハードな練習と暑さがとても辛かったようでしたが、「やりたい」と言うのでそれから毎回練習に参加しました。

しかし、グラウンドには行くものの練習に参加するのを拒み、わたしと共にただ見学するという日が半年近く過ぎました。

「やめたかったらやめてもいいよ」と言っても「今度はちゃんと練習に参加する」というので、しばらくはその言葉を信用していたのですが、そのうち「ここでわたしが折れたら、壮太がすぐに諦める子になってしまうだろうから負けないぞ!」と意地になっていました。

みなさんにはご迷惑かと思いながらもしつこく毎回グラウンドに行き、とても肩身の狭い思いで胃がキリキリしていたのですが、その成果がようやく実り、年が変わってラグビースクールで新3年生

となるのを機に、今までがウソのように参加できるようになりました。
その当時のコーチの方々、チームメイトのみんな、ただぼーっと突っ立って見学している壮太に話しかけてくれたりパス練習に付き合ってくれたパパさん、励ましの言葉をかけてくれたり温かい目で見守ってくれたママさん・ママさんたち。
関わってくれたみなさんには感謝してもきれません。本当にありがとうございました。
おかげさまでそれ以降は楽しく参加できるようになり、今日まで続けることができました。
正直なところ、スポーツに詳しくないわたしにとってはラグビーなんて激しいスポーツは壮太に向いているのか心配だったのですが、たくさんのポジションがあって個々に合った役割を担当できるという個性を生かせる場があること、個人の力だけが試される訳ではなく踏ん張っていれば必ず誰かが助けに来てくれてチーム全員でひとつのボールに向かっていくという協力することの大切さ、痛いとかわかっていてもタックルする勇氣。色んなことを学び、経験できました。
ラグビーに出会えて本当に本当によかったです。
今後の壮太の人生において、とても大切な糧になることと思います。
チームメイトのみんながこの糧を宝物にして、今後も素敵な人生を歩まれることを祈っております。
また、三浦校長をはじめ、コーチのみなさまにはこれからも「ラグビー」という素晴らしいスポーツの子どもたちへのご指導にご尽力いただけることを願ってやみません。
お世話になり、本当にありがとうございました。

卒業

6年 児玉 将梧

ぼくは幼稚園の頃から今日まで7年間ラグビーを続け、チームワークの大切さと、最後まであきらめない気持ちを学びました。
また、仲間と一緒に時には楽しく、時には厳しい練習に励み、お互いに助け合いながら成長できたと思います。コーチの皆様、チームのみんな、7年間ありがとうございました。

6年 児玉 将梧 母

息子がラグビーを始めたのは幼稚園の年中の時でした。初めの頃はボールが随分大きく感じられましたが、気が付けばもう私の背を越えようとしています。
今日まで7年間続ける事ができたのも、辛抱強く見守りながらご指導下さったコーチの皆様、そして様々な場面でサポートして下さったご父兄の皆様のお陰です。ラグビーを通して心身ともに息子の成長を支えてくださった皆様に心より感謝致します。ありがとうございました。
最後になりましたが、卒業する皆がそれぞれの進む道で麻生ラグビースクールでの学びを生かし、新たなスタートをきってくれることを期待しています。卒業おめでとう！

麻生での6年間

6年生 斎川 夏央

ぼくは1年生からスクールに入りました。入った頃はラグビーが嫌で毎週、雨が降らないかなーと思っていました。でもルールが分かるにつれて、ラグビーが楽しくなってきました。3年生から夏合宿に参加しました。清水コーチとしょうたコーチの指導に始めはビックリしけど、そのおかげで4年生からは余裕ができて今では良い思い出です。練習はきつかったけど、夜皆とテレビを見たりするのが楽しかったです。3日目の夜のバーベキューは1番の楽しみでした。
ぼくは、トライはあまり出来なかったけど、4年生の県大会藤沢戦でのトライは心に残っています。アキラからのパスでチーム全員が記録したトライになりました。
6年生の県大会はBチームで全敗だったけど、全試合に出れてうれしかったです。ファイナルカップの結果は悔しかったです。
1月の餅つき、4月の日大フェスタ、7月の夏合宿、秋の県大会、思い返すと楽しい事が一杯ありました。ありがとうございました。

夏央の卒業にあたって

6年 齋川 夏央の父 齋川 宏

6年間お疲れ様でした。

君が入校したのは1年生の6月の梅雨時からです。それから「嫌だ」と不平も言わず、毎週日曜日良く通いました。尤も、文句を言っても父親が聞く耳を持たないのを心得ていたからだと思います。華奢な身体で取り立て運動神経が優れているわけでもないなか、マイペースで練習を積む、性格が不器用な君を不憫にも思ったものです。

君にいつも言っていた「お前は自分が思っている以上に出来る」という親バカの気持ちは本心ですし、今も変わっていません。自分自身を変えられるのは、努力とそれに基づく自信と大きなチャレンジ精神です。スクールでの6年間は何ものにも代えがたい経験だと信じています。

最後に言っておきます。父親だからな。「ラグビーはお前に似合っているぞ！」

麻生ラグビースクールで過ごした8年間

6年 宮坂 瑛人

最初に麻生ラグビースクールに入った時は、ラグビーなんて嫌だ！と思って逃げ出したいと思っていました。

でも、2回、3回と足を運ぶうちにラグビーをだんだん“面白い！”と感じるようになりました。

年長、1年、2年と進むにつれ、だんだん練習は厳しくなり、キツイなあと思う時もありましたが、そんな時は仲間が励ましてくれました。

初めての県大会はFWで出ましたが、緊張して正直あまり覚えていません。

5年の県大会もFWで出ました。その頃にはやっと、オーバーのコツやタックルのコツを理解していたので、少しはチームに貢献出来たと思います。

そして、最後の県大会は全力でチームを応援し、練習相手等自分に出来る事を頑張りました。

麻生ラグビースクールで学んだ、One for All All for One!の精神を大事にして、これから前へ進みたいです。

コーチ8年間本当にありがとうございました。

ラグビーと共に

6年 宮坂 瑛人の母

初めて瑛人を連れて日大グラウンドに行った時の事が昨日の事のように思い出されます。美しく広大なグラウンドで幼稚園児から6年生までがとても楽しそうに、そして一所懸命プレーしている姿に感動し、是非ここでラグビーをやってほしいと、夫婦で即決しました。

しかし、私達の願いとは裏腹に、瑛人は初めて泣いてばかりで、何度も挫折しそうになりましたが、半ば強引に続けさせました。2年連続で合宿出発に涙していたのは瑛人だけだったのでは。。

One for All All for One! 瑛人も7年間でとても多くの事を学び、成長したと思います。

それも、一重に校長、コーチの皆様、ご父兄の皆様、そしてチームメイトのお陰と本当に感謝しております。ありがとうございました。

8年間の思い出

6年 横尾 瑛

麻生RSに幼稚園の年中から始めて8年。ラグビーは楽しかったです。ラグビーは大好きです。

ラグビーを通じて沢山の事を学び沢山の経験が出来ました。

三浦校長、コーチの皆様には厳しく指導していただきました。ありがとうございました。

「ファイナルカップ」では優勝出来ませんでしたが自分のベストは尽くし悔いはないです。

一緒に最後までラグビーをやってきた仲間へありがとうの気持ちでいっぱいです。

僕は中学、高校生になっても頑張っていきます。

本当に8年間ありがとうございました。

感謝

6年 横尾 瑛 の母 横尾 美紀

長男の昌哉が麻生ラグビースクールに入校がきっかけとなり瑛のラグビーが始まりました。早いもので8年がたちました。体が小さく、気持ちも弱い所もあり心配でした。大きな怪我もなく最後まで休まずラグビーを続ける事が出来たのは三浦校長、コーチの皆様、そして励まし、笑い、涙した仲間の支えがあってこそだと感謝しております。息子にとっても私達夫婦にとっても麻生の仲間と共有した数多くの経験は永遠の宝物だと思います。その宝物を心の糧として新たなステージに巣立って欲しいと思います。三浦校長をはじめコーチの皆様方 御父兄の皆様方 大変お世話になりありがとうございました。

全力

6年 奥川 朝陽

僕が、このラグビースクールで学んだ事は、いつも全力で向き合うという事です。練習の時に中途半端で終わってしまうと、このまま帰っていいのかな…という気持ちになりましたが、限界まで頑張ると、今日はやり切ったなあという気持ちで終われました。今思うと、一日の練習の中でも、常に全力でいられたか、そうじゃなかった時もありました。そんな中で、厳しく校長に言われた、“手を抜くな！”の意味が、少しずつ分かってきた気がします。ラグビーのことも、気持ちのことも、色々と教えて頂きました。ありがとうございました。

朝陽へ

6年 奥川 朝陽の父 奥川 秀樹

小学生のラグビーは楽しかったですか？お父さんは25人もの素晴らしいチームの仲間にも恵まれてラグビーが出来るという環境に朝陽が入っていったことがうれしく、またうらやましく思っていました。スポーツとしての体力、技術だけでなく、みんなで協力する事、一生懸命努力する事、礼儀正しく振る舞う事など色々なことを知らず知らずのうちに学んでいると思います。ファイナルカップは残念な結果でしたが、これからも悔しいこともうれしいことももっとたくさんあると思います。スポーツの世界は結果が全てであることを謙虚に受け入れなければいけないけれど、結果だけがスポーツの全てではないとも思っています。スポーツで得られるものは自分が考えている以上にずっとたくさんあると思います。これからも何でもいいから必死になってがんばれ。お父さんはいつでもずっと応援しています。

コーチの皆様へ

約4年間、いつも厳しくも楽しい正に体当たりでのご指導を頂きまして、本当にありがとうございました。小学生でラグビーの真剣勝負ができるという大変貴重な機会に恵まれ、本当に感謝しております。数々の練習、試合、大会、合宿。思い返せばたくさんのイベントがありましたが、まさににあっという間の事でした。みるみると成長していく子供たちに本当にたくさんの興奮と感動をさせて頂きました。2019年のワールドカップに向けて、これからも日本のラグビーを応援していきたいと思います。本当にありがとうございました。

ありがとうございました

6年 奥川 朝陽の母 奥川 由貴子

私がラグビーをとっても好きで、子供達にもぜひ、ボールに触れて欲しいと勝手に思ったのが始まり

でした。何回も体験をさせて頂き、面白くて、ちょっと怖くて、迷いに迷っての入校でした。その時に山本コーチが「お待ちしてましたよ」とあたたかく迎えて下さったのを憶えています。それからここまで、練習や試合、運動会や合宿、お餅つきなど、あらゆる風景を、朝陽だけでなく私も愉しみ悔しがり感動し、有難い時間を共有させて貰えたことが、大きな感謝です。最後の一年は、水泳が思った以上に忙しくなり、参加出来ないことも増え、苦しい日々でした。朝練後、疲れてても「練習行くよ」と平気なフリ、私もそんな素振りに気づかないフリで送り出し、続けられるか、続けていいのか、葛藤ばかりでした。彼がグラウンドに向かう限りは応援しようと思いました。今、卒業にあたり、朝陽が朝陽なりに、ラグビーを好きで、辛かったけれどあの時は頑張ったなあという記憶の小さな引き出しを一つでも持って生きていけたら、素敵な宝物になると思っています。皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

麻生 RS での 9 年間でふりかえって

6年 原田 健匠

僕は今年で麻生ラグビースクールを卒業します。6年生の中でいちばん初めに入校したのに技術はなく、仲間に迷惑をかけてしまったなと思います。練習がつらくて何度やめたいと思ったかわかりません。それでもやるかやらないか迷っているうちに、また日曜日になっていたという気がします。今は、「この9年間は僕に必要なものだったんだな」と、実感しています。なぜなら、僕は緊張に弱く、ラグビーの試合前に体が固まるようなことが何度もありました。けれどその時の経験があるから学校の式典や発表の時などの緊張が小さい頃より和らいできていると思うからです。少しだけ心が強くなりました！ここでの経験を中学校生活でも忘れないようにしたいと思います。

息子の卒業にあたって

6年原田 健匠の母 原田 芳

ボール遊びに行くのだと思っていた幼稚園。練習の厳しさに気づき始めた低学年。ようやく試合に勝つことを意識し始めた高学年。息子にとってこの9年間は決して楽しいことばかりではなかったと思います。いつだったか「ラグビーやめたいと思ったことある？」と聞いたら「あるよ、何度も」と、遠慮がちでしたがはっきりとした返事でした。本心なのでしょう・・・。けれども、彼はそのたびにその気持ちは封印してきました。低学年までは、私達が故意に選択肢を与えなかったのも事実です。しかし、高学年になってからは親は見守るだけです。結局、続けるという選択は自分でしたようです。本人が決めても、コーチや周りのお友達のサポートがなければきっと心が折れていたと思います。9年を経て最後に息子の笑顔が見られたのはコーチやチームメイトそしてご父兄の方々がいつも温かく見守ってくれたおかげと心から感謝しています。本当にありがとうございました。

9年間の思い出

6年 太田佳吾

僕が麻生ラグビースクールでのことを振り返ると2つの出来事を思い出す。一つは、県大会のこと。その頃ライバルだった横浜ラグビースクールに自分のキックミスで負け、悔しくて涙を流したことを覚えている。でも、その時、励ましてくれたのは翔太コーチと仲間だった。この時の感情は、上手く言えないけれど、忘れないだろう・・・。もう一つは、合宿のこと。ランパスなどのきつい練習、とても辛かったけれど仲間がいたから、最

後までやる事ができたと思う。夜、仲間と色々話しながら寝たことは楽しい思い出だ。

みんなへ

今までありがとう。中学にいったら勝負だ！！

コーチの皆様へ

今までありがとうございました。

9年間を振り返って

6年 太田 佳吾 (母) 美和

スクールに入校したことが、ついこの間の事に感じます。幼稚園の頃、トライの為に必死に仲間とボールを追いかける可愛い子供達の姿が忘れられません。学年が上がるにつれ、簡単に試合で勝てなくなり、息子は悔しい思いを経験しました。でも、勇気づけられる言葉をかけてくれたり、暗い雰囲気のを和ませてくれる素敵な仲間にもいつも支えられながら、今日までラグビーを続ける事ができました。

「皆、ありがとう。」このメンバーに出会えたこと事が、佳吾にとって何よりの宝だと思います。9年間息子に関わってご指導いただいたコーチの皆様、本当にありがとうございました。

麻生ラグビースクールでの3年間を振り返って

6年 芝田 悠馬

僕は、6年の中で最後の入校で、みんなよりだいぶ遅れていました。最初は何をしたら良いのか分からない所から始まって、コーチから色々教わったのを今でも覚えています。

だんだんやっていくにつれて、役目が増えたり、練習がハードになったりして、やりたくないなと思ったこともありました。

でも、自分の役割を果たすことが出来た時の達成感が嬉しくて、やっていくことが出来ました。麻生でやって来た事を、将来にいかしていきたいです。

陰で支えてくださった皆さん、いつも真正面から向き合ってくれたコーチの方々、ありがとうございました。

息子の卒業にあたって

6年芝田悠馬の母芝田みさ子

運動が得意ではなく、タイプのにも絶対合わないと思っていたチームスポーツのラグビーを経験させていただけしたこと、本当に感謝しています。

チームに迷惑をかけるのではないかと心配しながらも、入校させていただきました。

なかなか動きを覚えられず、試合でもみんなの後を追いかけるだけで、出していただくのも申し訳ない状態がずっと続き、正直、コーチの皆様やチームのメンバーには、ご迷惑をおかけしたと思います。

でも、6年になり動きに変化が出始め、秋には初トライを決めることが出来ました。本人も相当嬉しかったようです。自信にも繋がったようです。

他では味わうことの出来ない熱いコーチング、チームの仲間との連携。麻生ラグビースクールでの経験は、息子にとって財産になったと思っています。

入校させて良かったです。

本当にありがとうございました。皆様お世話になりました。

麻生ラグビースクールでの6年間を振り返って

6年 安藤 雄也

僕は4年生の夏、目標を決めました。

それは大きい相手が来ても逃げずに真正面から当たって倒すこと。

それを頭に入れて練習にはげました。県大会のとき、でかいやつが来ても倒すまではいかないけど、止めることができたのでうれしかったです。

今でもでかいやつが来ても逃げずにタックルに行ったり、オーバーに入るように努力しています。
これからもラグビーを続けるので、応援よろしくをお願いします。
コーチ達のおかげで、ラグビーの楽しさやフォワードのやりがいがとても伝わり、ラグビーが面白くなってきました。
いろいろ教えてくださり、ありがとうございました。

麻生ラグビースクールでの6年間を振り返って

6年 安藤 雄也の父 正和

我が子が麻生ラグビースクールに入ってから、早くも6年が過ぎ、もう卒業を迎えます。
初めはラグビーのルールも知らない私が、妻が知り合いから紹介されたこのスクールがいいという
ことで、見学に行ったところ、グラウンドがきれいで、子どもたちがいっぱいいて、のびのびとプ
レイしている風景を見て、すぐに入校を決めてしまいました。
こんな小さい子どもたちがラグビーなど出来るのかなと思って見ているとコーチの練習や指導に楽
しくついていき、試合も普通にこなせるようになり3・4年生になると、県大会でも勝ち進みいい
成績を残せるようなチームに仕上がって行きました。
私も息子の成長と共にラグビーのルールを覚えて、毎週の練習風景や、県大会等の試合を見るこ
とが楽しくなっていました。
息子が麻生ラグビースクールで学んだことが数多くあります。あいさつ・礼儀・仲間との友情な
ど数えればきりが無い程のことを学ばせてもらったと思います。
これからもこのスクールで多くの子どもたちがラグビーを楽しめるようかけながら応援して行
きたいと思います。
コーチの方々、6年間ご指導ありがとうございました。

ラグビーを通して学んだこと

6年 飯島 亮太

僕は、3年の夏合宿の後に入校しました。一番の思い出は、夏合宿です。スクールの皆と寝泊まり
し、ラグビー三昧だった菅平のことは、絶対忘れないと思います。
スクールでラグビーを通して学んだことは、一生懸命プレーすることの大切さです。けれど、ファ
イナルカップでは思うような結果を残せませんでした。今後いろんなことに関わる時、涙が出るほ
ど悔しくなるくらい一生懸命に取り組みたいと思います。3年半、ありがとうございました。

輝け！

6年 飯島 亮太の母 飯島恭子

25名の皆、卒業おめでとう！ 最近ぐっと大きくなった君たちは眩しいです。
いつ頃からか、息子24人+娘1人の合計25名の母のような気分になり、一緒に見守る皆のご両親
達からも、グラウンドに行く度、元気ももらっていましたよ。
県大会、ファイナルカップで勝ちきれなかったのは残念でしたね。反省すべきはちゃんと振り返り、
今後出会う仲間と信頼関係を築き、声かけあい、パスをつないで、いいTRYを重ねて行って下さい。
花園で、秩父宮で、どこのグラウンドでも、成長し輝く皆に再会する日を楽しみにしています。

校長はじめ幹部の皆様、コーチ陣の皆様、同期25名は個性豊かで、ご指導のご苦労は如何ばかり
だったかと想像に余りあります。
子供達へのご指導だけでなく、安全や技術面での日々の準備、スクールや県協会運営などへのご尽
力に感謝し、麻生RSの発展をお祈り申し上げます。
ありがとうございました。

麻生ラグビースクールでの7年間を振り返って

6年 山内 太朗

僕は5歳から7年間ラグビーをやってきました。最初は遊びに行く感覚で通っていました。3年生になった頃から、だんだん勝敗を意識してくるようになりウィングとしての責任を感じるようになりました。

自分の自信のあった、スピードとステップを生かしていきたいと思い出したのもこの頃です。試合で特に印象深かったのは、5年の県大会 田園戦です。同点だったのに、自分が相手をタックルできず点を入れられてしまい負けました。それがとても悔しかったです。

僕は守りが苦手でそれをもっと練習しないといけないと感じました。

ファイナルカップでは、メンバー選抜という仲間でありライバルになるという自分にとって初めての経験をしました。

最後の試合は負けてしまいとても悔しかったけれど、この仲間で練習していけたことは、僕はとても嬉しかったです。

最後にコーチには、ラグビーのことだけでなく沢山のことを教えていただきました。

「強い気持ち」「仲間を大事にしていくことの大切さ」を学びました。

ありがとうございました。

僕が将来「人の役に立つこと」でこの感謝を恩返しできたらと思っています。

麻生ラグビースクールでの7年間を振り返って

6年 山内太朗 父母 山内秀顕・江里子

素晴らしい環境と素敵な仲間、そして愛情あるご指導の元、小学生の大切な時期に沢山のことを経験させていただき、心身ともに成長させていただいたこと、とても感謝しております。

このスクールで学んだことは、太朗の今後の財産になると思います。

また、親のとってもスポーツの興奮と感動を改めて感じることができました。

本当に長い間、ありがとうございました。

ラグビーに対する思い

6年 津国千智

僕は2年生からラグビーを始めました。始めた当初は、ルールが全く分からず、スローフォワードなど反則ばかりしていました。しかし、コーチや多くの仲間からルールを教えてもらい、だんだんと分かるようになってきました。

3年生になり、初めての合宿では、練習が厳しくヘトヘトになってしまいました。そして、初めての県大会では優勝は出来なかったけど、他のチームと戦い、自分の実力を知ることが出来たことは良い経験でした。

4年生の時には、首をけがしてしまい、練習に出ることができず残念でした。

5年生では、けが以降、練習に集中することが出来ず、仲間との実力差を感じていました。試合にも出られず、練習に集中できなかったことを後悔しました。

最終学年である6年生では、受験勉強で十分に練習もできず、県大会にも参加することが出来ませんでした。その経験から、ラグビーをもう一度やりたいという気持ちが強くわいてきました。

コーチ・仲間の皆さん、けが・受験など色々あったけれど、僕をここまで成長させてくれてありがとうございました。

中学に入ってもラグビーを続けていきます。

これからは何事にも負けないで、勉強と共にラグビーを頑張っていきたいと思います。

麻生ラグビースクールでの5年間

6年 野田 怜佑

僕が麻生ラグビースクールに入った2年生のとき、まだ自分に合っているスポーツを見つけることが出来ていませんでした。そんなときに出会ったのがラグビーでした。スクールに入ったばかり

の頃は、ただ楕円球のボールをゴールに運ぶ競技だと思っていました。しかし実際にやってみると違って、自分にボールが回ってくると、ボールを持って相手にぶつかることでチームの役に立つことがわかり、うれしくて、自分にあっているスポーツだと思いました。

学年が上がってくると練習の厳しさが増し、特に夏合宿は3泊4日の間、ほとんどラグビーの練習しかありませんでした。厳しい練習でくじけそうなきもありましたが、そんな時にいつでも応援したり、励ましてくれたりしてくれるのは仲間でした。5年生の夏合宿の時は、菅平賞をもらうことができました。菅平賞を貰った時は、本当に自分がもらえたのか信じられないくらいうれしかったです。

6年生になってからはあまり練習に参加することができず。県大会では1試合しか出られませんでしたが、ファイナルカップではただ試合を応援しているだけでした。

だから中学生になったらラグビーの練習と勉強を両立させて、チームで試合を応援する側でなく、試合に出る側になりたいです。



おめでとう！

5年チーフコーチ 濱田 正行

6年生の皆さん、ご家族・担当コーチの方々、小学部の卒業おめでとうございます。今後、DAGSに進むメンバーもいると思いますがここでひとつの区切りになります。ラグビースクールの特色として非常に広い地域から集まっているので同じ小学校同士の方が珍しいかもしれません。その中で普段と異なる地域に住む仲間と出会い、一緒に楽しく、辛い練習を経験し、同じチームとして試合に挑んだ仲間はこれからも忘れる事はないと思います。今の6年生とは土曜練習や高学年での合同練習も増えたのでほぼ顔と名前は一致しています。(ただ人数が多くて全員は覚えきれませんでした…)

みんな積極的に練習し、ラグビーを楽しんでいる子が多かった印象です。これからもラグビーを続けるメンバー、異なるスポーツをはじめのメンバー等いると思いますが麻生RSで同じ目標に向けて一緒に頑張った事を忘れず頑張ってください。最後に！ いつでも気軽にラグビースクールに遊びに来て、近況を聞かせて下さい。コーチ達はみんなを暖かく迎えてくれます。

カップ戦を逃した君たちへ

5年生コーチ 斎川 宏

ノーサイドの笛が鳴り、顔を覆ったミブを見たらおもわず泣けて来た。6年生のみんなお疲れ様でした(大和RSとの一戦が終わっただけで、ファイナルカップ:FCは未だ続く訳だったけど)。担当外コーチですが、土曜日合宿形式の練習を見学して来た者としても非常に残念な結果となってしまいました。試合前は「大和に負けっぱなしで終わるんじゃないぞ」と心の中で念じてても、如何ばかりのサポートになる筈ありません。

実力通りの試合結果であったと言えますが、(タラ、レバではなく)勝チャンスがなかった訳ではありません。内容でも充分通じていましたし、エリア的には互角以上でした。にも拘わらず、スコアの差は何処にあったのかは一人ひとり考えてみて下さい。解りやすい「映像」がUPされています。実力だけでは推し量れない原因が必ずあります。25人が観れば25通りの捉え方があります。そしてそれらは全て正しいと思います。自分自身で考え、捉えたものに誤りがある筈がありません。君たちの「意思」が重要なのです。小学生での公式戦は終了しましたが、中学生に進級しどのスポーツを選ぶにしろ、麻生での経験、極論すればFC大和RS戦の敗戦を次のステップの糧として下さい。

最後になりましたが、卒業おめでとう。夏合宿を頑張り、県大会を2チームで戦い抜き、FCを目指した君たちは格好良かったです。君たちは凄く成長しました。5年生と比べると君たちは大人でしたし、ラグビーの実力でも歯が立ちませんでした。「強い」上級生は目標であり、憧れです。良いお手本をありがとう。

卒業する6年生へ

5年コーチ 芝田

この麻生ラグビースクールで君たちはいろいろ多くの事を学んできたと思います。ラグビーを通してチームメイトと共に苦しい練習や楽しい時間を過ごし一生に残るいい思い出とチームメイトを作れたと思います。

この先、苦しい事や辛い事に対面する事もあると思いますが真夏の走り込んだ苦しい練習や最後まで諦めない気持ちで臨んだ試合を思い出し頑張ってもらいたいです。これからラグビーを続ける人も続けない人もいると思いますが、ラグビーで学んだチームメイトの為に頑張る精神は忘れないで欲しい。

卒業しても時間がある時は麻生ラグビースクールの練習に顔を出してください。コーチ達はいつでも歓迎します。卒業しても頑張ってください。

卒業おめでとうございます

5年 宮澤 樹

6年生、卒業おめでとうございます。この1年で、6年生からいろんなことを学びました。1つは、タックルです。理由は、6年生の練習や試合を見て、すぐ反応して低く前を見てタックルをするということが分かったからです。もう1つは、声かけです。理由は、声かけをするとキックオフの時のキャッチなどの時でだれもとらなかつたりぶつかつたりするということが少なくなるからです。あと、パスも回しやすくなるし、前に進めるということも、6年生を見て分かったからです。6年生の試合や練習を見ていると、すごく声を出して、パス回しでぬいてトライをとっているということたくさん見ているので、ぼくはそういう6年生になりたいです。6年生が卒業すると、ぼく達が麻生の最高学年になるので、しっかり引きついていきたいとおもいます。中学生になったら、学校も大変だと思いますけど、ラグビーもがんばってください。

6年生へ

5年生 萩原 起

ご卒業おめでとうございます。

6年生のみなさんは、ぼくらとちがいテクニックやタックルの強さ、声を出す事がすごいなと思いました。

いつも試合をすると僕たちは1トライもとれませんでした。なので、6年生が僕の目標です。これからはぼくたちが6年生の皆さんのようになって、麻生をひっぱって行きたいです。これから、中学校でも頑張ってください。

ひっぱってくれてありがとう

5年 池田 昂生

6年生に贈る言葉です。

合宿の時、練習の時、声を出しみんなを引っ張ってってくれてありがとうございました。

頑張る先輩の姿を見て、すごいなと思うことがたくさんありました。

僕も先輩方のような6年生になりたいです。

中学でも頑張ってください。

ありがとう

5年 森 天

短い時間だったけど、6年生とラグビーができて、とても楽しかったです。

またいっしょにラグビーができるといいなと思っています。

一年間ありがとうございました。

六年生に送る言葉

5年 竹川 正剛

今年の六年生は幼稚園から一緒にやっていた人もいて卒業していなくなってしまうさみしいですが、中学に行ってもラグビーががんばってください。

ぼくも今年六年生になるので、がんばりたいと思います。

今年は6年生、最上級生

5年 中島 知己

僕の今年の目標は、県大会やファイナルカップに向けて、わからないことはコーチに聞いて、チームの連携を大事にしたいです。最後まであきらめずに、がんばりたいです。

卒業おめでとうございます

5年 小高 佑

六年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

これまで、ひっばってきてくれてありがとうございます。六年生のおかげでここまでがんばってこれたと思います。ぼくも六年生になったらがんばって下級生たちをひっばっていきたいです。麻生ラグビースクールを卒業してもがんばってください。

強かった6年生

5年 久松 豊夢

試合をしたときにいつも負けていて後から「6年生はやっぱりすごい」と、思って6年生みたいに強くなりたいと頑張って練習をやっているけど6年生にはやっぱり追いつけないからこれからは6年生みたいに足が速くて、タックルが強くなりたいです。
ご卒業おめでとうございます。

6年生へ

5年 都留光平

ぼくは、6年生が夏合宿で厳しい練習をがんばっているのを見ました。今年もぼくも夏合宿をがんばりたいと思います。校長のランパスや練習はきついだろうけど、最後までやりぬきたいです。

6年生のみなさん

5年 都留 茉奈実

いつも試合をすると負けてしましますが、モールに入る時の低い姿勢、声をだすこと、パスまわしなどいつも学ぶ事がたくさんあります。いっしょに練習した時は、あまり話す機会がなかったですが、いつもお手本だった6年生みたいになりたいと思います。そしてもっと強くなりたいです。

おめでとう

5年 海老原銀次

卒業おめでとうございます。いままで、ラグビーを教えてくれたり、一緒に練習してくれてありがとうございます。土曜日練習のタッチフットの時は小さい子に「こっちにきて」と優しくしてあげている六年生がかっこよかったです。

ありがとう六年生

5年 原田太陽

今年の六年生は試合前の気合いがすごいと思いました。僕は相手が強いと気持ちが圧倒されてしまうことがあるからなおさらです。なので、六年生になったら僕も気持ちを強く持って試合にのぞみたいと思います。六年生のみなさん今までありがとうございます。

低学年交流大会

月日：10月25日(土) 12:30~15:00

場所：大和スポーツセンター

[1年生]

麻生 ○45 - 5● 横浜B

麻生 ○20 - 10● 横浜D

麻生 ○40 - 20● 横浜E

麻生 ○30 - 20● 茅ヶ崎AB

[2年生]

麻生・大和 ●30 - 40○ 茅ヶ崎

麻生・大和 ●15 - 60○ グリーン

麻生・大和 ○40 - 35● 逗子葉山

関東大学対抗戦 前座試合

日時：10月26日(日) 12:00~13:00

場所：ニッパツ三ツ沢G

試合：関東大学対抗戦

明治大 vs 明治学院大学

[2年生]

麻生 ○55 - 45● 藤沢

低学年交流大会

月日：11月30日(日) 9:00~12:00

場所：大和セシリア

参加：大和, 藤沢, さがみ南, 麻生

[1年生]

麻生 ○20 - 15● 大和B

麻生 ○25 - 20● 藤沢C

麻生 △15 - 15△ 大和A

[2年生] ※8分1本

麻生 ○10 - 5● 藤沢

麻生 ○40 - 0● さがみ南・大和

麻生 ○35 - 20● 大和

麻生 ●5 - 15○ 藤沢

麻生 ○5 - 0● 大和

麻生 ○10 - 5● さがみ南

トップリーグ 前座試合

月日：12月13日(土) 13:00~

場所：相模原ギオンスタジアム

試合：トップリーグ前座試合

NEC vs コカ・コーラ

[1年生]

麻生 ●20 - 55○ 大和B

編集後記

ファイナルカップが終了し、ラグビースクールとしての行事も卒業式を残すのみとなりました。6年前に麻生ラグビースクールを卒業した高校生二人がユース日本代表に選ばれ、今、世界を相手に戦っています。

今年卒業することどもたちも高校、中学へ進学し、ラグビーを続ける人、別の道に進む人それぞれだと思います。「麻生ラグビースクールでラグビーをやっていた」ことを胸に、新たな道を進んでください。

卒業生一人一人が次代を背負う若者として成長することを切に願います。

編集長 野田